

留学報告書

熊本県立大学 文学部 英語英米文学科
4年 成富俊介

私は2007年の9月から2008年の5月までの約9ヶ月間、本学と協定を結んでいるモンタナ州立大学ビリングス校に交換留学をしていました。この留学が私にとって初めての海外ということもあり、胸が高鳴ると同時に不安も感じていました。

9月に学校が始まると、最初はわからないことばかりで、戸惑うことも多々ありましたが、留学生のお世話をしてくれる学生がいて、いつも助けてくれました。休日には留学生を買い物に連れて行ってくれたり、さまざまイベントを計画してくれたり、本当によくしてくれました。留学生が不安なく、快適に過ごすためにはなくてはならない存在でした。

ビリングス校では私は寮に住んでいました。一人部屋と二人部屋を選べるのですが、私はせっかくの機会だから、英語の上達にもつながるだろうと思い、二人部屋を選択しました。今ではこの選択は間違っていなかったと言えます。しかし、いきなり見ず知らずの他人と同じ部屋で共同生活を始めるのですから、最初のころはとても大変でした。私のルームメートは23歳で私より二つ年上の方でした。しかも、そのルームメートはあまり話しかけてくる方ではなかったので、いつも自分から話し掛けて、積極的にコミュニケーションをとるようにしていました。就寝時間の違いで言い合いになったこともありました。きちんと話し合っ解決することが出来ました。この寮生活で学んだことは、協力することが大事であるということです。一つの部屋で二人で生活をしているのですから、自分勝手に振舞っては共同生活は成り立ちません。お互いがお互いを思いやる気持ちや協調性を持つことが上手く生活していくためには欠かせないのです。中々出来る経験ではないと思うので、することが出来てよかったと思っています。

食事に関しては、学校のカフェテリアを利用していました。朝食、昼食、夕食と食べることが出来ます。その中でも私は朝食が一番好きでした。なぜならメロン、パイナップル、イチゴ、スイカなどのフルーツやヨーグルトを食べることが出来たからです。昼食のメニューは曜日によって決まっていました。ご飯も出るときがあったので、私としてはとても助かっていました。夕食は肉料理が出るが多かった気がします。量はどれだけ食べても構わず、食べ放題のような感じでした。やはり、思っていた通り肉中心の食生活でしたので、栄養が偏ってはいけないと思い、野菜は必ず食べるようにしていました。友達やルームメート、そして他の国からの留学生たちとテーブルを囲み、お互いの国のことについて話したり、授業について話したりしながら、一緒に食事を楽しんでいました。アメリカ人はよく食べると思っていたのですが、私のほうがよく食べていたのではないかと思います。みんなに、「そんなに食べるの？」と驚かれていました。

ビリングス校は2学期制で、最初の9月から12月までを秋学期、後の1月から5月までを春学期といいます。私は、2007年の秋学期では **College Success Strategies**、**Interpersonal Communication**、**Introduction to Intercultural Communication**、**English Essentials**、**Basketball, Beginning**、**Fly Fishing**、**Reading Improvement** の計7つの講義を受けました。**College Success Strategies** の講義では、アメリカの文化などをはじめ、大学生活を上手く送っていくための勉強の仕方や時間の有効活用について学んだりしました。**Interpersonal Communication** の講義では、個人間で上手にコミュニケーションをとるためにはどうすればいいのかを学びました。**Introduction to Intercultural Communication** の講義では、異なる文化の人々と上手くコミュニケーションをとるための心構えや方法を学びました。**English Essentials** の講義では、英語の基本的な文法の復習をし、それを踏まえた上で、英語でのエッセイの書き方を学びました。**Basketball, Beginning** と **Fly Fishing** の講義はそれぞれ実技もありました。特に **Fly Fishing** は初めての体験でしたので、新鮮で楽しかったです。実際に講義の一環として釣りに行くことが無かったのが残念です。せっかくなので習った技術を一度は試してみたかったです。そして最後の **Reading Improvement** の講義では、教科書の効率的な読み方を学び、他の教科の教科書を読む際にとっても役立ちました。

2008年の春学期では、**Introduction to Public Speaking**、**Introduction to Language**、**Coaching Soccer**、**Introduction to Native American** の計4つの講義を受けました。**Introduction to Public Speaking** の講義では、スピーチの準備の仕方や組み立て方について学びました。実際にクラスメイトの前でスピーチをする機会も3回あり、学んだことを実行に移す機会を持てたことは大変よかったですと思います。人前で話すことは苦手だったのですが、この講義を受けたことでそれに対する抵抗感が薄れていったのを感じることが出来ました。**Introduction to Language** の講義では、英語の言語構造—音韻論、意味論、形態論、語用論、統語論について学びました。また、言語習得の過程や仕組みについても学びました。英語という言語についての理解を一層深めることが出来ました。この講義は英語を学習する上でとてもためになったと思います。**Coaching Soccer** の講義では、小学生や中学生を対象としたサッカーの指導方法を学びました。自分が実際にサッカーをすることと指導をすることには大きな違いがあり、いかにわかりやすく効率的に指導するためにはどうしたらいいのかということを実践を通して学びました。**Introduction to Native American** の講義では、ネイティブ・アメリカンの歴史、文化、価値観などについて学びました。教科書だけではなく、ビデオやDVD、インターネットと使用教材も多岐にわたっていました。教授だけではなく、学生の中にもネイティブ・アメリカンの方がいて、生の話を聞く機会にも恵まれました。また、モンタナ州にはネイティブ・アメリカンの居留地もあり、実際に見ることも出来ました。ネイティブ・アメリカンの種族はとて多く、ビックリしたのを覚えています。

私はこの留学生活で以上のような講義を受けました。どの講義も刺激的で楽しい

ものばかりでした。予習や宿題、テスト勉強は大変で忙しかったですが、手は一切抜かず最後まで頑張り抜きました。講義でわからなかったところは講義後すぐに教授に聞くようにしていましたし、オフィスアワーを利用して教授のオフィスに行き、質問するようにもしていました。どの教授の方も懇切丁寧に私の質問に答えて、指導してくださいました。そのおかげで多くのことを吸収することができました。

また、私はこの留学生活を通して手に入れたものがあります。それは、友達です。友達がいなければ私の留学生活はこれほどまでに充実したものにはなっていなかったのではないかと思います。国籍もアメリカ、イギリス、オーストラリア、メキシコ、インド、ドイツ、セルビア、韓国、中国、モンゴルと多岐にわたっています。彼らとは一緒に食事をしたり、パーティをしたり、映画を見に行ったり、スポーツをしたりとたくさんのかんことをしました。寮に住んでいる友達の部屋に遊びに行き、ゲームをしたり談笑したりすることもありました。お互いの国のことについて教え合うことももちろんありました。そんなときに思い知らされたのが、自分は何て日本について知らないのだろう、ということでした。相手の国のことを聞くばかりで、自分の国のことを伝えられないのでは、それは国際交流とは言えないと気づきました。真の国際交流というものはず、自分の国について深く知ることから始まるのではないかと思います。

今も特に仲のよかった友達とはメールの交換をしています。またいつか会って、そのときは日本のことについて何を聞かれてもいいように、しっかりと勉強しておきたいと思っています。

留学をする前は不安で仕方なかったのですが、実際に行ってみると楽しさのほうが勝っていました。もちろん大変なことはたくさんあり、努力は必要ですが、強い意志を持てば何だって乗り越えることが出来ると気付かされました。自分の英語力を高めることはもちろんのこと、さまざまなことを体験することで自分の見聞を広めることも出来ました。この留学生活は私にとってかけがえのない、素晴らしいものとなりました。これから先、困難な状況に陥るときがあると思いますが、この留学経験を活かし、決してあきらめず、強い意志を持って取り組んでいきたいと思っています。